

★ まちづくり ニュース



ホームページ

<https://tokiwadai.net/>

276号

2025年2月27日



常盤台の景観を守る会
常盤台まちづくり委員会

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

— 都心低空飛行問題について —

○ 国交省からのチラシ

国交省が「羽田空港のこれから」2025年冬号をポスティングするそうです。25日から1ヶ月ほどかけて区内全戸に配布の予定とか。

「羽田問題解決プロジェクト」のSさんは、国交省側の情報だけでは都合の良いことしか伝わってこないと、各区の担当職員に正確な資料を提供して説明しています。板橋区でも機会を見て説明に来て貰うよう努力しています。

○ 裁判では

3月7日（金）羽田新ルート訴訟の高裁での第一回公判があります。一審の原告28名のうち病気や亡くなったり様々な事情で5名が引き、23名の方が控訴しました。この理不尽な新ルートと決定した非民主的なやり方を追求してほしいと思います。

○ 「東京空色さんぽ」では

前号でお知らせした「東京空色さんぽ」は2月2日（日）22:54～23:00にTBSテレビで放送されました。常盤台の駅舎・ロータリー・プロムナードを撮影するという計画でしたが、簡単な駅前と住宅街の映像の他は、洋菓子店の「ラ・ノブテイク」が紹介されていました。

他にも別の民放から取材申し込みがあったお店がありました。混雑するのがいやで断わったということです。

安くて便利なチェーン店は1・2軒あれば充分で、常盤台には小規模でも個性的な商店がふさわしい気がします。地元住民が愛し応援するのはそうしたお店のようです。

○ バザーの予告

今年の夏には参議院選挙があります。守る会のバザーも今のところ予定していますのでよろしくお願ひします。

はなづくりの会のマーマレードも、去年の夏みかんの出来にもよりますが、一応販売する予定でいますので、こちらもよろしくお願ひします。

○ 屋外広告のゆくえ

駅の北口改札を出ると目の前のビルの屋上に巨大な広告がありました。かつては金融会社が広告していました。しばらく前までは駅ビルの中の洋食店の看板になっていましたがいつの間にかなくなっています。何度か広告主が変わる合間も募集中という下地の看板はあったのですが、それも取り下げられています。次の広告は募集しないということでしょう。

もう何年も前のことですが、改札を出て左側の薬局の上にも広告塔の骨組みが乗っていました。広告主が現われないままずっと雨ざらしのような状態でしたが、いつの間にかどなたかの英断で取り壊されました。

景観についての議論の中で、屋外の巨大広告にはどちらかというとな否定的な見方がされていますが、この二つの例は自発的な抑制であったとしたら地域の景観上、多大な貢献と言わねばならないと思うのですが。

○ 旧中央図書館跡地の活用に関する説明会があります

区民から要望の出ている常盤台公園内の旧中央図書館の跡地についての説明会、地元住民は多数参加しましょう。

3月23日（日）10:00～11:00
常盤台地域センター レクホール

龍谷大学学生の調査活動

龍谷大学法学部の学生たちが明治神宮外苑の再開発の調査と、国立や常盤台の景観紛争について調べるために三月五日ごろやって来ます。街歩きもしたいそうなので、天気が良ければ彼らが常盤台を歩き回っている姿を見かけることでしょう。

大河ドラマでは

「光る君へ」の後で始まった「べらぼう」の視聴率はどうも右肩下がりのようです。舞台が江戸の吉原なので、いくらドラマが工夫されても人身売買や性奴隷の歴史を否定することはできないのです。横浜流星さんがいくら頑張っても、吉原に客を集めると言う篤重の目的自体が現代人特に女性達の価値観とソリが合わないのではないのでしょうか。吉原などの売買春文化が江戸時代に隆盛だった爲に、梅毒の罹患率が高ともない高さだった位です。そういう吉原が舞台という事は大河ドラマとしてはかなりの冒険をしている訳です。

現代でも女性蔑視の風潮は根強いのですから、伝統的文化にそれは色濃く染みついているので不断の改革が必要です。相馬野馬追でさえ「女性は未婚の二十歳以下」という信じられないような参加基準を撤廃したではありませんか。

園芸用土の始末

いらなくなったプランターや鉢の土を何処に棄てたら良いのかについて取りあげたことが有りましたが、三鷹市では四月から毎月第二土曜日に市内の特定した二カ所に持ち込む形で回収を始めます。井の頭公園に棄てられる行為が続発していたのが原因。板橋区でもぜひ同じような取り組みをして貰いたいと思います。

回収した土は堆肥を混ぜたりして再生し、再利用を考えるそうです。

求む植木職人

常盤台では庭や生け垣のある家がほとんどなのですが、手入れをする植木屋さんで困っている家も増えて来ました。親方の高齢化で代替わりしたり廃業したりする中、慢性的な人手不足で、最近では外国人らしい職人が来たりします。親方の指導があるうちは信頼できますが、将来はなんだか不安です。シルバー人材に頼むと草取りは良いが伐採・剪定はやはり専門職に限るようだと依頼した人の言です。

庭が激減している現在、技術を身につけた植木職人はますます希少価値のあるものになってきましたが、公共施設においてもちゃんとした樹木の管理に専門職が求められていると思います。

常盤台公園のはなづくり

私たちはなづくりの会が協力しているのは公園の角のクリスマスローズの花壇と旧図書館前の二カ所の花壇で、あとはツツジなどの低木の手入れです。

高木の剪定などはもちろん区の方がやっています。今年もケヤキやスタジイの剪定が終りました。

ただ作業員の殆どが外国人だったので、きちんと樹木の手入れの学習ができていないか気になりました。剪定はただ枝を詰めれば良いというものではなく、水分の通り道を残しておくなければやがて枯れてしまふと聞きました。

パンジー・ビオラの間からチューリップの芽が始めています。ノッポさんが目印の棒を幾本も立てています。チューリップは上に居座っているビオラ達の隙間をかくぐって出てきます。ビオラ達の根は柔らかいので問題ないのでしょうか。

北側の斜面は相変わらず踏み荒らされてしまつて一カ所のキチジョウソウは枯れてしまい、もう一カ所も悲しい状態です。何とかしたいのですが……

